

令和7年度「NGO研究会」

-NGO と他の機関・団体との連携、組織基盤の強化- 実施報告書

2026年3月27日

一般財団法人 CSO ネットワーク

1. 研究会の背景・目的・成果

1.1. 研究会の実施背景と目的

歴史的転換期にある国際情勢に加え、気候変動や難民問題、紛争の長期化などの地球規模課題が深刻化・複雑化する中、開発協力大綱において謳われる市民社会や民間企業など多様なアクターとの連携・共創の重要性は一層高まっている。近年では、経済団体や企業、市民社会の中間支援組織による連携促進の取組も増加しており、マルチステークホルダー、クロスセクターによる共創の機運は着実に高まりつつある。

当団体は、令和6年度 NGO 研究会「NGO と企業のパートナーシップ」において、全国規模の調査を11年ぶりに実施し、NGO・企業・中間支援組織を対象に、連携の実態や課題、連携促進に必要な機能を整理した。その成果を「NGO と企業のパートナーシップガイド」および「実施報告書」として取りまとめた。特に実施報告書においては、連携の促進と深化に向けた今後の展望として、①組織基盤強化と連携への準備支援、②連携を生み出す場の構築と事例の共有、の2点を提示した。前者については、連携を希望する NGO・企業・個人等がそれぞれ自組織のミッションやビジョン、強み、役割を明確化するとともに、出会い、学び合う機会としての「組織基盤強化トレーニング」の必要性を指摘した。後者については、連携事例を集約・発信するとともに、学びと実践の循環を支える仕組みを、全国的な枠組みのもとで構築・提供する必要性を示した。

こうした流れを受け、当団体は令和6年度に続き令和7年度 NGO 研究会の実施主体として、「NGO と企業のパートナーシップガイド」を基盤に「組織基盤強化トレーニング」のプログラムを構築し全国で実施するとともに、連携情報を集約・発信するプラットフォームの設計・運用を進めた。これらの取組を通じて、NGO と他機関・団体との連携促進に向けた組織基盤の強化を図るとともに、これまで地域や個別団体ごとに展開されてきた取組を全国的な枠組みへと発展させていくことを本研究会の目的とした。具体的には、連携プラットフォーム「Shared Vision」の実装と、組織基盤強化と連携促進の場としての「Shared Vision ワークショップ」の実施の2点を柱として取り組んだ。

1.2. 本研究会で目指した成果

上記の目的のもと、1年間にわたる本研究会活動を通して、以下の2つの成果を得ることを目指した。

(1) 連携プラットフォーム「Shared Vision」の実装

連携情報の集約・発信する連携プラットフォーム「Shared Vision」にて、連携促進に必要な情報を整理し公開する。

- (2) Shared Vision ワークショップ（組織基盤強化+連携促進のプログラム）の実施
 連携促進に向けた組織基盤強化+連携促進のワークショッププログラムを構築し、地域のネットワーク NGO 等と協働して実施する。

1.3. 本報告書の位置付けと成果達成状況

本研究会では、上記の成果目標に向けた各活動の実施内容と研究会終了後の展開に向けた方針や提言等を取りまとめた「実施報告書」を作成するとともに、連携プラットフォーム「Shared Vision (Web サイト)」上に連携情報を公開することを、本研究会の成果と位置付けている。

なお、1年間の活動を通じて、掲げた2つの成果目標はいずれも達成された。次章以降では、それらの成果に至る各活動の実施内容について報告する。

2. 実施体制とスケジュール

2.1. 実施体制

本研究会の体制は、以下の8名をコアメンバーとして構成した。

本研究会全体の活動計画の評価・改善など、全体の質のコントロールについては、当団体共同代表理事の松岡秀紀が統括した。組織基盤強化に関するワークショップカリキュラムの構築・実施については、学術的知見を踏まえ、国土館大学21世紀アジア学部学部長の中山雅之教授が統括を担った。

また、「NGOとのパートナーシップ」領域において実践的知見を有するメンバーとして、(認N)日本ハビタット協会の篠原大作氏(NGO)、(株)東急エージェンシーSDGsプランニング・チームPOZIの丸原孝紀氏(企業)、そして連携事例・プラットフォームにおける効果的な情報発信については、朝日新聞 With Planetの木村文氏が連携アドバイザーとして助言を行った。加えて、事務局体制としては、当団体共同代表理事の長谷川雅子と事務局次長の楯晃次、補助業務として塚原真琴を中心に運営を行った。

さらに、本研究会の取組を全国的な枠組みへと発展させるため、関西NGO協議会、名古屋NGOセンター、NGO福岡ネットワークといった地域のネットワークNGOを協働パートナーとして実施した。

1. 松岡 秀紀	: 全体統括	(一財)CSOネットワーク	共同代表理事
2. 中山 雅之	: 組織基盤強化統括	国土館大学21世紀アジア学部	学部長・教授
3. 長谷川 雅子	: 業務執行責任者	(一財)CSOネットワーク	共同代表理事
4. 楯 晃次	: 業務執行責任者	同上	事務局次長
5. 塚原 真琴	: 会計・広報補助	同上	
6. 篠原 大作	: 連携アドバイザー (NGO側)	(認N)日本ハビタット協会	事務局長
7. 丸原 孝紀	: 連携アドバイザー (企業側)	(株)東急エージェンシー	POZI
8. 木村 文	: 連携アドバイザー (情報発信)	朝日新聞 With Planet	副編集長

2.2. スケジュール

本研究会は、以下のスケジュールに基づき実施され、概ね当初の計画通り円滑に進行した。

活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
成果(1)連携プラットフォームの実装												
①連携プラットフォーム構想	→	→	→	→								
②地域のネットワーク NGO との連携		→	→		→	→			→		→	→
③連携カード作成と集約			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
④情報公開					→	→	→				→	→
成果(2)ワークショップの実施												
①ワークショッププログラムの構築		→	→	→	→							
②ワークショップ（広報と実施）					→	→	→	→	→	→	→	
③振返りとアップデート							→	→	→			
④成果報告会の準備・開催									→	→	→	
⑤活動の発信						→	→	→	→	→	→	→
事務局・報告書												
- 事務局会議	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
- 中間報告書作成・提出							→	→				
- 報告書作成・提出											→	→

※当初計画では中間報告を2025年9月に予定していたが、ワークショップの実施状況を踏まえ、内容を報告・意見交換の場として再構成し、11月初旬の東京会場でのワークショップ終了後に実施した（本変更については、2025年9月時点で関係者に共有済み）。

3. 実施内容

3.1 成果(1)連携プラットフォーム「Shared Vision」の実装

活動① 連携プラットフォーム構想

令和6年度 NGO 研究会で実施したアンケート・ヒアリング調査およびシンポジウム等を通じて、「連携について相談に乗ってほしい」「連携パートナーと対話する場・出会いの場を設けてほしい」「繋げてほしい（紹介・マッチング）」といったニーズや課題が確認された。これらを踏まえ、連携を促進・深化していく上で必要となる機能や、それらを継続的に提供するための体制のあり方について、連携アドバイザーおよび中間支援組織・個人、JICA との意見交換を重ねながら検討を行った。

- ・連携アドバイザーとの Mtg+全体会議（4/18、4/26、5/2、5/20、7/29）
- ・中間支援組織+連携に関心のある個人との Mtg（4/21JANIC、5/21 個人、7/9JICA、7/22 個人）

活動② 地域のネットワーク NGO との連携

各地域における連携事例や相談内容、マッチングの実態、さらには地域ごとに異なる課題やニーズの特徴について情報共有を行うとともに、各団体が実施している既存の連携支援の取組（相談対応、マッチング支援、場づくり等）について、その有効性や課題に関する意見交換を行った。

これらの検討を踏まえ、活動①で検討した連携プラットフォームにおける連携のあり方について、全国的な枠組みとしての対応を見据えた議論を行った。

加えて、本研究会の成果(2)であるワークショップの実施に向けた連携体制の構築および企画・運営に関する調整も併せてミーティングを実施した。

- ・JANIC (5/7、9/4)、関西 NGO 協議会 (6/19、9/2、9/16、3/18)、NGO 福岡ネットワーク (7/8、9/2、9/13)、名古屋 NGO センター (7/9、9/5)

活動③ 連携カードフォーマット作成と集約

活動①および活動②で整理したニーズや議論を踏まえ、連携に関する情報を整理・可視化し、関係者間で共有・活用できるようにすることを目的として、「連携カード」のフォーマットを(株)東急エージェンシーSDGs プランニング・チーム POZI の協力により作成した。本フォーマットでは、団体のミッションや事業内容、連携において提供できるリソースや求める連携内容、過去の連携実績等を整理できる構成とし、連携の検討やマッチングの際に活用可能な内容とした。

また、本フォーマットを用いて、成果(2)であるワークショップの事後課題として参加団体等に取り組みを促し、連携情報を収集・集約した。これにより、活動④における情報公開・活用を見据えた仕組みとして整理を行った。さらに、情報の公開・活用では、sera (株) の協力を受けた。

The image displays two pages of a form titled "Shared Vision". The left page contains input fields for organization information (name, location, establishment date, email, HP), a section for "団体概要" (Organization Overview) with fields for Mission and Vision, and sections for "主な取り組み・課題" (Main Activities/Issues) and "主な活動地域" (Main Activity Areas). The right page features the "Shared Vision" logo and four main sections for input: "連携によって実現したいビジョン" (Vision to be realized through cooperation), "私たちができること" (What we can do), "サポートして欲しいこと" (What we want to be supported with), and "ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと" (What we want to challenge for vision realization).

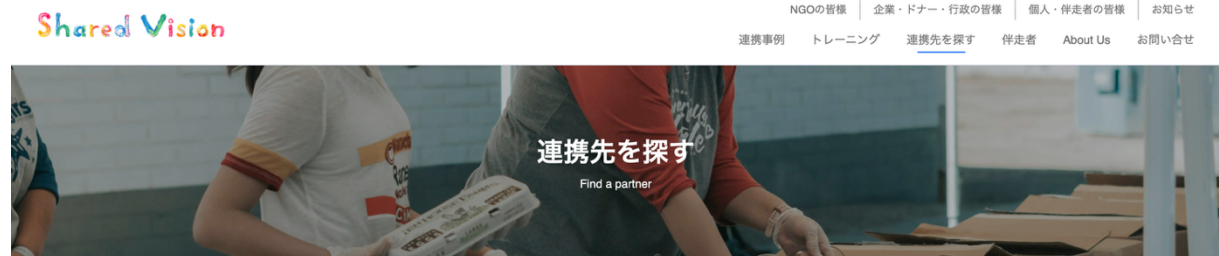
活動④ 情報公開 (Shared Vision)

活動①から③までの検討および取組を踏まえ、連携プラットフォーム「Shared Vision(<https://sharedvision.jp>)」において情報の公開を行った。本プラットフォームでは、「連携事例」「トレーニング」「連携先を探す」「伴走者」の4つを主要なカテゴリとして設定し

た。「トレーニング」では、「連携について知る」「自団体を知る」「連携パートナーを知る」「連携を始める・深める」の各段階に応じたカテゴリを設定し、体系的に学べる構成とし令和6年度NGO研究会で実施したシンポジウム動画や、最終成果物である「NGOと企業のパートナーシップガイド」等のコンテンツを掲載している。また、「連携先を探す」では、活動③で作成した連携カードを掲載し、ダウンロード可能な形式で下記の通り提供している。なお、本報告書の末尾にも現在掲載している連携カードを掲載している。



[連携先を探す] <https://sharedvision.jp/partner/>



自分たちがもっている強みを探している連携先は、世界中にあります。そして、自分たちが困っている部分をカバーしてくれるパートナーも沢山います。凸凹がピッタリとハマる連携パートナーを探しましょう。

TAGS

タグ

連携の型

#金銭寄付 #物品寄付 #キャンペーン実施・開催 #助成金 #ボランティア・プロボノ
#自社商品の無償提供 #商品・サービスの共同企画・販売 #業務委託 #コースマーケティング
#新団体・プラットフォームの設立 #認証・評価

課題分野

#地域開発 #保健・衛生 #平和 #環境 #まちづくり #農業・農村開発 #教育 #防災・減災
#外国人 #難民 #災害 #紛争

地域

#国内 #アジア #東南アジア #中東 #アフリカ #北米 #中南米 #ヨーロッパ

セクター

#NGO/NPO #行政 #企業

連携カードを掲載する

(特活) 関西NGO協議会
人と地域をつなぐ関西から国際協力を推進する関係から国際協力を推進するNGOです。
#キャンペーン実施・開催 #国内 #NGO/NPO

ダウンロード

(公社) 日本国際民間協力会
異国や紛争のない、自己実現のできる世界を1979年より途上国の自立支援や難民支援、国内外の自然災害被災者支援を展開。
#アジア #アフリカ #保健・衛生 #国内 #NGO/NPO #災害 #紛争

ダウンロード

(公社) 国際経済労働研究所
調査なくして運動なし
一人では変えることのできない社会を、みんなで変える調査研究を
#データ #公共政策形成
#調査なくして運動なし #国内 #NGO/NPO
#行政 #企業

ダウンロード

(社福) 大阪ボランティア協会
あなたが動く、社会が変わる。
大阪ボランティア協会は、1969年、全国に先駆けて誕生した市民活動サポートセンターです。
#国内 #NGO/NPO

ダウンロード

(認N) 難民を助ける会
「困ったときはお互いさま」を世界へ。
1979年に難民支援を目的に発足。国連に公認・登録された日本生まれの国際NGOです。

ダウンロード

(特活) ヒマラヤの星たち
ネパールの明日をつくる子どもたちにエールを子どもたちの障害を早期に発見・治療し、教員や親たちの気づきを促す活動をするNGOです。
#事業連携 #寄付連携 #アジア #保健・衛生 #NGO/NPO #教育

ダウンロード

(株) ピープルフォーカス・コンサルティング
サステナビリティ組織開発で経営、および人と組織の未来を切り拓く
B Corp認証企業として、社会と組織の持続的成長に貢献する
#アフリカ #企業 #アジア #教育

ダウンロード

(特活) モザンビークの新しい教育を支援する会
板橋尚江
「一人を大切にする教育活動」、「一人を大切にする社会の構築」を目指して活動しています
#アフリカ #認証・評価 #アジア #NGO/NPO

ダウンロード

(株) 杉インターフェイス
森から世界を創発する
日本・インドネシアで循環型森林資源活用を食育・商品開発・事業化へ
#アジア #森林 #地域開発 #東南アジア #商品・サービスの共同企画・販売 #企業 #農業・農村開発

ダウンロード

(認N) 藤沢市民活動推進機構
つなぐ・支える・うごく
NPO活動を支援し、藤沢の市民活動を盛り上げるための活動をしています！
#国内 #NGO/NPO

連携カードを掲載する

ダウンロード

3.2 成果(2)Shared Vision ワークショップ（組織基盤強化+連携促進のプログラム）の実施

活動① プログラムの構築

ワークショップの開催にあたっては、企画・運営体制の整備、プログラム構成の検討について、研究会初期より統括を担う中山教授を中心に検討を進めた（5/2、5/23、6/6、6/13、7/4、8/4等）。

特に、令和6年度NGO研究会で得られた知見として、自団体のミッションやビジョン、団体の強み・弱み、さらには自団体が目指す連携のあり方が不明確なまま、連携パートナーとの出会いを求めても、十分な連携に至らないケースが多いことが明らかとなった。

この課題を踏まえ、本研究会では、ワークショップ参加前に全4ページにわたる事前課題ワークシート（9/4・9/5作成）に取り組むことで、「なぜ自団体は連携を進めたいのか」「どのような連携を目指すのか」といった点を整理した上でワークショップに臨む設計とした。なお、本事前課題においては、令和6年度NGO研究会の成果物である「NGOと企業のパートナーシップガイド」やシンポジウム動画の視聴を組み込んだ構成とした。

また、当日は事前課題の内容を持ち寄り、参加者同士が具体的な対話を通じて連携の可能性を検討できる場として構成した。さらに、ワークショップで得られた学びを深めるため、事後課題として成果(1)活動③の「連携カード」および連携プランの精緻化に取り組む設計とし、必要に応じて連携アドバイザーによる伴走支援を行った。その上で、特に成果の得られた事例については、成果報告会において発表する機会を設けた。

これらを踏まえ、本プログラムは、(1)事前課題への取組、(2)ワークショップへの参加、(3)事後課題への取組、(4)成果報告会、の4段階で構成した。

事前課題ワークシート	
連携を知る・自分たちを知る・相手を知る	
<p>事前課題は「連携を知る」ことからスタートし、「自分たちを知る」「相手を知る」へと進みます。そして最後には、双方の強みを活かして課題解決につながる連携案をまとめます。本ワークシートへの記入を通じて、自団体・自社にとって望ましい連携のあり方を、一緒に整理・検討していきましょう。必要に応じて行を追加するなど、自由に記入してください</p> <h3>1. 連携を知る</h3> <p>まずは、連携についてまとめた小冊子『パートナーシップガイド』と、シンポジウム動画「今求められている連携とは」を下記からご覧ください。</p> <p>これらを通じて「連携の歴史」「連携タイプ」「なぜ今、連携が必要なのか」、そして「Shared Visionとは何か」について理解を深めていただけます。</p> <p>・『パートナーシップガイド』（全12ページ） https://www.mofa.go.jp/mofa/ica/ku/11/100876249.pdf</p> <p>・『今求められている連携とは』（23分） https://youtu.be/7d3qob13t7c?si=49d6mS8T1wq0B5</p> <p>次に示すのは、上記小冊子や動画でも紹介した連携タイプの4分類です。これに活動分野などを掛け合わせると、具体的な連携がイメージ出来ます。連携を考える参考にしてみましょう（複数のタイプにまたがる連携もあります）。すでに連携を行っている団体は、現在の連携がどのタイプにあたるのかを考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">資金支援型（フィランソロビー型）：寄付・助成協力量型（トランザクション型）：ボランティア・プロボノ派遣共創関係型（インタグレーション型）：共同企画・業務委託新組織開発型（トランスフォーメーション型）：新組織の設立 <p>この4分類の中で、連携効果を発揮しやすい共創関係型の事例をいくつか記載しますので、これらも参考にしてください。</p> <h4>認証評価系</h4> <ul style="list-style-type: none">ユニバーバ × WWF：持続可能なパーム油生産・流通プログラムスターバックス × Conservation International：持続可能なコーヒー調達プログラム <h4>業務分担系</h4> <ul style="list-style-type: none">リコー × セーブ・ザ・チルドレン：映像とICTを使った教育支援プロジェクトヤマト運輸 × 日本赤十字社：災害時の物資輸送支援協定イオン × セーブ・ザ・チルドレン：子どもの食支援 <h4>広報系</h4> <ul style="list-style-type: none">セブンイレブン × 国境なき医師団：セブン銀行ATMでの募金受付と啓発キャンペーンユニクロ × 国連難民高等弁務官事務所：店舗・オンラインで古着回収キャンペーンココ・コーラ × WWF：北極のシロクマ保護キャンペーン	<h3>2. 自団体を知る：連携を考える前に自分たちについて振り返る</h3> <p>自団体・自組織のミッション・ビジョンを再確認しましょう。ビジョン達成のために連携が必要なのかを改めて考え、「連携でどんな課題を解決したいのか」「連携にあたって発揮できる自団体の強み」を整理してみてください。</p> <p>(1) 現在、団体・組織が掲げている実現したい世界や社会（Vision）はどのようなものですか？</p> <p>(2) そのVisionに近づくために、自分たちが果たすべき役割（Mission）は何ですか？</p> <p>(3) 連携によって、自分たちが抱える・困っている何を解決したいと考えていますか？</p> <p>(4) 連携にあたり自分たちの強みは何でしょうか？可能な範囲でその理由も書いてみましょう。</p> <h3>3. 相手を知る：連携先の選定</h3> <p>それぞれの団体・組織が実施している、あるいは考えているパートナーシップの在り方や価値観は、統合報告書、CSR/サステナビリティレポート、年次報告書、ウェブサイトで、さらにはミッションやビジョンなどからも読み取ることができます。まずは、すでに連携をしている団体・組織や今後連携を検討したいと考える相手を具体的に挙げてみましょう。連携が成立するためには、双方の本業に資するかどうかが重要な視点となります。</p>

福岡会場の様子（会場：リファレンス駅東ビル / 福岡県福岡市博多区博多駅東 1-16-1）



大阪会場の様子（会場：大阪大学中之島センター / 大阪府大阪市北区中之島 4 丁目 3-53）



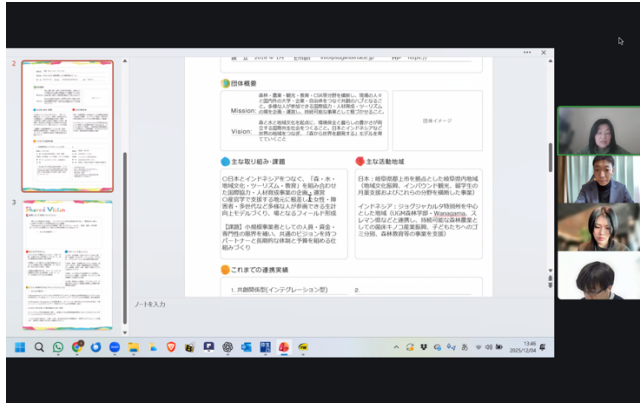


東京会場の様子（会場：虎ノ門ヒルズ Glass Rock / 東京都港区虎ノ門1丁目 22-1）



実施（事後課題）

ワークショップ終了後の事後課題では、ワークショップで得られた学びや対話の内容を踏まえ、成果(1)活動③で作成した「連携カード」および連携プランの精緻化を行った。また、各団体の状況に応じて、連携アドバイザーによる伴走支援を対面およびオンラインにて複数回実施し（12/4、12/8、12/11、12/25、1/14等）、個別の課題整理や連携内容の具体化に向けた助言を行った。



活動③ 振り返りとアップデート

各会場でのワークショップ終了後（10/15、10/31、11/13）には、実施内容の振り返りを行い、参加者の反応や運営上の課題を整理した。その結果を踏まえ、プログラムの流れや構成、進行方法、事前課題の誤字脱字を含む内容等について見直し・調整を行い、より効果的な内容となるよう継続的な改善を図った。

活動④ 成果報告会の準備・開催

ワークショップおよび事後課題の取組を通じて具体化された連携の成果を共有することを目的として、発表団体の選定や発表内容の整理、当日の進行構成等について内部で検討を重ねた（12/18、12/29、1/7）。

その後、会場となる虎ノ門ヒルズ Glass Rock の使用に関する調整や企画内容のブラッシュアップについて複数回の検討を行い（1/21、1/27、2/19、2/26）、登壇者への依頼および広報準備を進めた。なお、成果報告会では具体的な連携検討に至る事例も含まれていたことから、広く一般に公開するのではなく、ワークショップ参加者およびその関係者等に対象を限定して参加者募集を行った。

当日は、各団体が取り組んだ連携の検討内容やそのプロセス、成果および課題について発表が行われた。また、参加者からの質疑応答や連携アドバイザーからのコメントを通じて、連携の実践に向けた示唆や新たな気づきを得る機会となった。さらに、研究会として今後の連携支援プログラムの展開に関する紹介を行うとともに、JICA 共創プログラム「QUEST」に関する企画についても JICA 担当者より紹介が行われた。

「Shared Vision ワークショップ 成果報告会」

日 時：2026年2月27日（金）14:00～17:10
 会 場：虎ノ門ヒルズ Glass Rock B1F
 主 催：外務省、CSO ネットワーク
 協 力：NGO 福岡ネットワーク、関西 NGO 協議会、名古屋 NGO センター
 後 援：国際協力機構
 参加者数：40名（登壇者・関係者含む）

プログラム内容（敬称略）

開会挨拶：CSO ネットワーク 長谷川 雅子

歓迎挨拶：虎ノ門ヒルズ Glass Rock 若松 保治

行程振返：CSO ネットワーク / EMA 楯 晃次

成果報告：認定 NPO 法人 PLAS 事務局長理事 小島 美緒

成果報告：スターゼン株式会社 サステナビリティ推進室室長 脇坂 努

成果報告：認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構 理事 五十嵐 めぐみ

休憩・名刺交換

講 評：外務省国際協力局 NGO 協力推進室長 岩上 憲三

今後の展開：CSO ネットワーク / EMA 楯 晃次

国際協力機構（JICA）企画部 総合企画課 宮島 あかね

閉会挨拶：国士舘大学 21 世紀アジア学部学部長 中山 雅之

当日の様子

- 開催挨拶 -



- 歓迎挨拶 -



- 成果報告 PLAS -



- 成果報告 スターゼン -



- 成果報告 藤沢市民活動推進機構 -



- 総評 -

- 連携アドバイザーコメント -



- 今後の展開 -



- JICA QUEST 紹介 -



- 閉会挨拶 -



参加者の声

- ・他団体や企業の具体的な連携事例を通じて、企業と NGO の協働の可能性や課題への理解が深まり、「自社に置き換えて考える貴重な機会となった」との声が聞かれた。
- ・連携においては、目的や成果、時間軸などの目線合わせの重要性を再認識するとともに、「相手の論理に立って説明する必要性を痛感した」といった意見が挙げられた。
- ・事前課題・ワークショップ・事後課題・成果報告会といった一連のプロセスについて、「一度限りではなく、連携案をブラッシュアップし次のアクションにつなげられる貴重な機会となった」との評価が得られた。
- ・中間支援機能や連携の場の重要性についても、「こうした連携のための組織の存在を知り、外に出ていこうと思った」といった声が寄せられた。
- ・「多様な主体との出会いと学びを通じて、今後の連携に向けた意欲が高まった」。

活動⑤ 活動の発信

研究会の取組および成果については、連携プラットフォーム「Shared Vision」上において、ワークショップの実施報告、成果報告会の内容について記事として取りまとめ、また連携カード、関連コンテンツ等を掲載し、連携に関する情報の可視化と外部に向けて発信した。

さらに、下記のとおり、対面イベントへの参加・登壇や新聞記事掲載（デジタル・誌面）等を通じて、本研究会で得られた知見や事例を広く共有し、NGO と企業をはじめとする多様な主体との連携促進に向けた機運の醸成につなげた。

・HAPIC での活動報告

国際協力 NGO センター (JANIC) が主催する「HAPIC2025」のオープニングセッションの一つとして、外務省令和 7 年度 NGO 研究会の取組について、「なぜ今 Shared Vision なのかーマルチセクター連携の推進と深化に向けてー」をテーマに登壇した。同研究会の統括を務める

国士舘大学中山教授が「Shared Vision とは何か」をテーマに講演を行い、その後、連携アドバイザーである(株)東急エージェンシー丸原氏と(認N)日本ハビタット教会・篠原氏事例共有を行った。続いて、JICA 経済開発部田中伸一次長を交え、「連携をどう推進・深化させるか」をテーマにパネルディスカッションを実施した。最後に、研究会の取組全体について楯が発表を行った。



※報告の詳細については、「課題解決の先へ。「HAPIC (ハピック/HAPPINESS IDEA CONFERENCE) 2025」オープニングイベントレポート」https://www.chuo-nittochi-nakaniwaproject.com/article/20260130_01 2026/3/18 を参照。

※パネルは、「HAPIC2025 セッション一覧」<https://sites.google.com/janic.org/hapic/program> 2026/3/18 より引用。

・新聞記事掲載（デジタル版及び紙面）

(1)木村文(2025)「企業×NGO で未来を変える 社会課題の解決へ模索するマッチング」

<https://www.asahi.com/withplanet/article/16218805> 2026/3/18 参照。



(2)木村文「もっと with Planet NGO×企業 高まる「協働」の重要性」『朝日新聞』2026/2/16（夕刊）、4面。

4. まとめ・今後の展望

本研究会では、NGO や企業等が自らの強みや連携を通じて目指す方向性を言語化・共有することで連携の可能性を探る「Shared Vision ワークショップ(組織基盤強化+連携促進のプログラム)」を全国3か所で実施した。また、連携情報を集約・発信する連携プラットフォーム「Shared Vision」についても、地域のネットワーク NGO や企業等とともに設計・運用を進めた。これにより、これまで地域や個別団体ごとで完結していた取組が、全国的な枠組みへと発展しつつある。さらに、ワークショップ等への参加や連携情報へのアクセス機会を得た NGO・企業等においては、組織の方向性整理や連携検討の前進が見られるなど、一定の成果が確認されている。

一方で、全国的な枠組みによって連携促進の基盤は着実に形成されつつあるものの、NGO の組織基盤強化や連携を各団体が単独で進めることの難しさも改めて確認された。特に、組織体制や意思決定プロセス、事業戦略が十分に整理されていない場合、「連携への意欲」があっても具体的な行動に踏み出せないケースが多く見受けられる。また十分な整理がないまま連携に着手した結果、投入した時間や労力に見合う成果が得られず、組織的負担や担当者の心理的負担が蓄積し、連携への取組が停滞、あるいは中断に至る状況も見受けられる。

こうした課題を踏まえ、今後は以下の2点を柱とした取組みが求められる

(1) 伴走支援を継続的に行うための仕組みづくり

第三者の立場から組織の現状を整理し、優先順位付けや方向性の明確化を支援する伴走支援者の関与は、組織基盤強化および連携促進の両面において重要な役割を果たす。こうした伴走支援が継続的に機能するための仕組みづくりが求められる。

(2) 連携を生み出す場の展開と情報収集・発信の継続

連携を希望する NGO・企業・個人等が出会い、学び合える「連携の場」の継続的に提供するとともに、連携事例を含む情報の収集・発信を全国的な枠組みのもとで引き続き行うことが求められる。

多様なアクターとの連携を推進・深化させるには、単発の事業では限界があり、中長期的な視点に立った継続的な支援体制の構築が不可欠である。本研究会で得られた知見やネットワークを起点に、今後は全国規模での連携促進に向けた基盤づくりを、関係機関・団体と協働しながら継続的に進めていきたい。

5. 納品物

- ・実施報告書（本紙）

連携カード一覧

団体名 特定非営利活動法人関西NGO協議会

所在地 大阪府大阪市西区土佐堀1-6-3 JAM西日本会館5階



設立 1987年6月 Email knc@kansaingo.net

HP <https://www.kansaingo.net>

団体概要

Mission: 市民一人一人が、社会・世界を変えるために行動ができる社会の実現。

Vision: 国際協力分野のNGO間連携を促進し、多様な主体をつなぐことで、日本社会におけるNGOの存在感と持続的な発展を支え、世界平和に貢献する。



主な取り組み・課題

- ・ NGOの運営、組織基盤強化に関する相談対応や助成・伴走支援
- ・ ユース向けイベントや研修、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth などの啓発
- ・ 政策提言、情報発信
- ・ NGO同士および他セクターとの交流・ネットワーク形成を行い、NGOが持続的に活動できる環境づくり



主な活動地域

日本国内（主に関西地域）



これまでの連携実績

1. 資金支援型(フィランソロピー型)

連携先: 真如苑

分野: 国際協力、多文化共生

対象者: 関西に拠点を置くNGO

強み: 小規模のNGOも支援

成果: 2014年度から延べ52件/1400万円以上の助成を実施

関西NGO協議会・真如苑 共催

関西地域
NGO助成プログラム



<https://www.kansaingo.net/project/grantprogram.html>

2. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 企業、教育機関、NGO等

分野: 国際協力、多文化共生

対象者: 高校生・大学生世代のユース

強み: 国際協力・多文化共生・SDGsについて学ぶことができるユース対象イベント

成果: 2014年度から延べ34,452名が参加



Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

関西NGO協議会は、関西を拠点とするNGOの連携を促進し、市民や他セクターとの協働を通じて、持続可能で公正な社会の実現に貢献する。

1. NGOをつなぐ

NGOと市民、企業、行政、教育機関など、様々なつながりを強化することで、連携が生まれるプラットフォームを創り上げたい。

2. 社会を動かす

市民への啓発による意識、行動の変容と政策提言を通して世の中の仕組みを作ったり、変えたりしながら様々なレベル感で物事を良い方向へと動かしていきたい。

私たちができること

- ・38年続く運動体。関西の地にて培ってきた市民社会の土壌による、団体の紹介や情報提供。
- ・外務省やJICAとの交渉力。NGO単体ではできないことを実現する力。
- ・NGOの意見を聞き、まとめあげる調整能力。
- ・国際協力だけではない市民社会組織とのネットワーク、ベテラン世代からユース世代まで幅広い世代のつながり。

サポートして欲しいこと

- ・ネットワークや専門性の強化
士業や企業、組合、宗教法人、他分野ネットワークと連携を促進していくために、社会貢献に関心を持つ様々なネットワーク、つながりを紹介いただきたい。
- ・対話の場（勉強会）の創出
連携において他セクター、他分野に関わる方がどのような思いを持っているのか、考えているのかを知る機会を一緒に作りたい。

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

他業種との対話の促進やネットワーク同士の連携によるネットワーク強化を図り、関西NGO協議会から広がる繋がりや輪を広げていきたい。

その中で自然に連携の声があがり、中で調整し、育て上げられていく、そんな場を実現していきたい。

連携こそが私たちが目指す未来への最短距離だと考えています。

団体名 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

所在地 大阪府高槻市芥川町2丁目14-20 ハウスネットビル4F

設立 1979年12月 Email info@kyoto-nicco.org

HP <https://kyoto-nicco.org>



団体概要

Mission: 1. 緊急災害支援
2. 環境に配慮した自立支援
3. 人材育成

Vision: 人々が貧困と紛争から解放され、地球環境との調和の中で、自己の可能性を十分に実現できる、心と地域の平和の構築。



主な取り組み・課題

- ・緊急人道支援
国内外の紛争や災害に起因する人道危機に対応するため、現地のニーズに沿った支援を実施。直近ではウクライナ紛争被災者への医療物資支給、ミャンマー地震被災者への生活用品配布、能登地震被災者への炊き出し、弁当および生活用品の配布など。
- ・途上国の自立支援
生計向上のための農業技術指導、女性や若者向けの職業訓練など。
- ・衛生環境の改善
給水設備や衛生設備の建設、衛生啓発活動の実施。

主な活動地域

- ・ウクライナ・オデーサ州
 - ・ミャンマー・マンダレー地域
 - ・マラウイ・ムジンバ県
 - ・日本国内
(自然災害発生時)
- *これまでに世界26の国と地域で活動を実施。
上記は2026年の活動予定地域。

これまでの連携実績

1. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 葉山ロータリークラブ
分野: 保健(感染症予防)
対象者: ケニア・母子死亡率が高い地域の住民
強み: 蚊帳の適切な使用管理
成果: マラリアまん延の改善



2. 資金支援型(フィランソロピー型)

連携先: 大日本除虫菊株式会社
分野: 災害(能登地震)
対象者: 能登半島地震による被災者
強み: 現場の的確なニーズ把握
成果: 被災地にある仮設トイレの衛生環境改善



Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

NICCOは、世界中のすべての人が平和で安心して暮らせる世界を作りたいと願い活動をしています。企業が持つ高度な技術やリソースと、NICCOが1979年から培ってきた現地に「寄り添う支援」を掛け合わせることで、紛争や災害によって一度は壊されてしまった人々の生活を、持続可能な形で再建し、一人ひとりが本来持っている力を取り戻せる社会を共に創り上げたいと考えています。

私たちができること

- ・45年以上にわたる現地密着型の活動経験と、住民との強固な信頼関係
- ・各国の政府機関やNGOとのネットワークを活かしたスムーズな事業運営
- ・現地のニーズを的確に捉えた実効性の高いプロジェクト立案とモニタリング
- ・環境負荷を抑えた持続可能な開発手法（エコサントイレ、有機農業等）の知見

サポートして欲しいこと

- ・継続的な事業運営のためのパートナーシップ構築
- ・企業の広報力を活かした社会的認知度の向上
- ・新規事業（紛争や災害時等）の立ち上げ資金・物資の提供
- ・専門スキルを活かしたプロボノによる組織基盤強化

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

NICCOが実施する活動は、災害地や紛争地での緊急支援から途上国の自立支援まで多岐にわたります。複雑化する現地課題を解決し、NICCOの活動をより迅速かつ持続的に展開するために、企業との連携をさらに促進していきたいと考えています。具体的には、平時から密なコミュニケーションを図り、有事の際にどういった支援が可能なのか、そのために必要な連携をともに考え進めていきたいです。特に、NICCOが抱える安定的な資金確保や社会的認知度の向上といった課題に対し、企業の皆様が持つ広報力やネットワークを活かした活動や、専門技術を導入した新しい自立支援モデルの構築に積極的にチャレンジし、共に持続可能な社会の実現を目指したいと考えています。

団体名 公益社団法人 国際経済労働研究所

所在地 大阪市中央区北浜東3-14 大阪府立労働センター4階

設立 1948年

Email politica@iewri.or.jp

HP <https://www.iewri.or.jp>



団体概要

Mission: 国内外の労働・経済・社会に関する調査研究を行い、公共の政策形成及び労働運動をはじめとした社会的運動の発展に寄与し、もってあるべき社会の実現と学術に資することを目的とする。

Vision: 労働界、学界、産業界とのネットワークを広げ、調査運動を社会全体を包括するものへと深化させ、公共の政策形成に寄与するシンクタンクとなっていく。



主な取り組み・課題

・労働運動・社会運動の支援と課題解決

労働運動や社会運動に資する調査研究を実施し、労働者の地位向上と課題解決を研究面から支える

・働く人びとの意識と実態の解明

働く人びとの労働組合への意識や働きがいなどを調査し労働環境や制度深化に資する情報を提供

・政策実現と政治参画への貢献

政治意識調査を実施し組合員の政治参画を促進。調査知見を基に、政策立案やアドボカシー活動（政策要求）を支援する

主な活動地域

・日本（全国）



これまでの連携実績

1. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: (社福) 大阪ボランティア協会、(特活) 関西NGO協議会、連合大阪、連合奈良

分野: 「労働運動と市民社会との連携をめざす予備調査 (CLUCS2024)」の実施

対象者: 近畿地域の労働組合員

強み: 調査設計からCSO・労働組合・研究者・当所の4者で実施

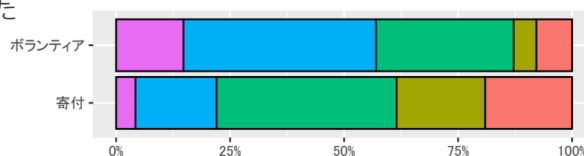
成果: 組合員のNPO等にたいする印象が把握できた

【結果一例】

…ボランティアは「参加することで勉強になる」という回答が多くを占めましたが、寄付が「勉強になる」と感じている組合員は少ないようです。寄付は、友人や知人がやっているかどうかを参考にしている度合いもボランティアに比べて低くなっていました。寄付はあくまで個人的に親切心でやるもの——そんなイメージが垣間見えます。…

勉強になる

■ 思う ■ やや ■ どちらとも ■ あまり ■ 思わない



▶ 報告書の全文はこちらからダウンロードできます。



Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

社会運動に関わる市民団体・運動体が、
運動の推進のために必要なデータを主体的に収集・分析、活用することで、
エビデンスにもとづく運動の展開が可能な社会を実現する。

私たちができること

- ・社会調査の専門家による調査の企画・実施
- ・既存調査の再分析やレポート作成
- ・労働界（労働組合）との関係性・つながり

サポートして欲しいこと

- 労働組合以外の広範な社会運動体との関係構築し、運動体の資金力のみには依存しない連携を実現するための、
- ・調査の趣旨に賛同するさまざまなアクターが拠出するしくみづくり
 - ・その枠組みを通じた共同事業への参加

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

研究所を、「社会運動を“実装”するための研究の拠点（プラットフォーム）」にしたい。
調査研究を結節点にして、市民社会組織（CSO）、企業、労働組合の三者が協力・連携し、課題に取り組むしくみを作り、社会に広げていきたい。

団体名 社会福祉法人大阪ボランティア協会



所在地 大阪市中央区谷町2丁目2-20 2F 市民活動スクエア「CANVAS谷町」

設立 1965年11月 Email office@osakavol.org

HP <https://osakavol.org/>



団体概要

Mission: より公正で多様性を認め合う市民主体の社会をつくるために、多彩な市民活動を支援するとともに、他セクターとも協働して、市民セクターの拡充をめざします。

Vision: 協会は、多様な主体による連携と市民参加の促進によって、社会課題解決のためのソーシャルイノベーションを起こします。これらを仕掛け、社会にうねりをつくり出すコーディネーション機関のモデルとなります。



主な取り組み・課題

1. コーディネート
〈ひとりひとりと共に〉
〈NPO/NGOのみなさんと共に〉
〈企業のみなさんと共に〉
2. 調査研究とノウハウの提供
〈調査・研究・政策提言〉 〈出版〉
〈講師派遣〉 〈市民学習・研修〉
3. 当協会が取り組んでいる社会課題
〈社会的孤立の抑制・解消〉 〈災害支援・防災〉



主な活動地域

1. コーディネートは、大阪を中心に関西圏にて
2. 調査研究とノウハウの提供は、大阪を中心に全国にて
3. 当協会が取り組んでいる社会課題は、大阪を中心に求めに応じて全国へ



これまでの連携実績

1. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 製薬会社、長期療養の子ども支援NPO
分野: 医療・福祉・子ども
対象者: 関心のある製薬会社社員、一般市民など
強み: 伝える力、つなぐ・つながる力
成果: 関西を拠点とする長期療養の子どもたちとその家族を支えるNPOを応援するプログラムを実施。「はじめの一步」ハンドブックを作成するとともに、9団体とともに啓発チャリティイベントを実施(2024年)。

▶ 「はじめの一步」
ハンドブック



2. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 被災地NGO協働センター、企業・労組・NPO
分野: 災害支援
対象者: 能登半島地震で被災した七尾市中島地区の方
強み: 相乗り力、つなぐ・つながる力
成果: 「あいのりボランティアバスツアー」を企画し、28人が参加。家財の運び出しなどの他、公費解体の対象にならない小屋の瓦の撤去、仮設住宅でのお茶会やアロマ体験会、避難所での足湯など多様な活動で、被災者を応援(2024年)

▶ 誰ひとり取り残され
ない災害支援を
目指して



Shared Vision

🍌 連携によって実現したいビジョン

◆どんな社会をめざしているか

より公正で多様性を認め合う市民主体の社会をめざし、ボランティアやNPO/NGO、企業の市民活動の推進に取り組んでいます。

◆どうすればその社会を実現できるか

社会の課題を他人事にせず、誰かが動きだすことで、徐々に活動の輪は広がっていきます。誰か=あなたが動くこと、それが社会を変える一歩になります。

◆私たちひとりひとりにできることは、「助け合って、元気になる」こと

みんなが笑顔でお互いを助け合い、助け合うことでさらに元気になる。私たちはそんな社会をめざします。合言葉は「助け合って、元気になる！」みんなが笑顔でお互いを助け合い、助け合うことでさらに元気になる。私たちはそんな社会をめざします。

◆企業やNPO/NGOと連携し、「助け合って、元気になる」価値を実感する人を増やします。

🍌 私たちができること

◆企業のみなさんと共にできること

サステナビリティ、SDGsなど、企業の社会貢献活動をサポートします。

- ・社員研修の企画・運営
- ・寄付寄贈先のNPO/NGOを紹介
- ・企業とNPO/NGOのマッチング
- ・助成プログラム企画・運営など

◆NPO/NGOのみなさんと共にできること

NPO/NGOの活動をバックアップ&サポートします。

- ・活動拠点の提供
- ・運営相談
- ・「パートナー登録団体」には、企業・行政・関心を持つ市民とつなぐなどの活動支援など

🍌 サポートして欲しいこと

◆企業のみなさんにサポートして欲しいこと

[1] 社員・役員対象に、社会課題の感度を高めるような研修を、一緒に企画開発したいです（NPO/NGOと連携した、座学・フィールドワーク・ボランティア活動体験などに対応できます）。

[2] 中小企業のみなさんと共に、各企業の個性や強みを生かしたサステナビリティ、SDGsなどの取り組みを、一緒にプログラム開発したいです。

◆NPO/NGOのみなさんにサポートして欲しいこと

上記の取り組みにあたり、講師派遣やフィールドワークの受け入れ、ボランティア活動プログラム開発などを一緒に企画開発したいです。

🍌 ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

◆企業とNPO/NGOが連携して、「社会人基礎力」のある人材育成プログラムを開発したい

「人生100年時代の社会人基礎力」（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）をもった人材開発は、企業・労組にとっても、NPO/NGOにとっても、人的資本経営の基盤となります。教育ツールとして、「社会課題を知る学習」や「社会課題に出会うボランティア活動」をNPO/NGOと連携して開発し、社員・組合員に学びや体験の機会を提供します。

<企業・労組にとっての価値>

- ・「社会人基礎力」向上及び人的資本経営に資する人材開発の機会となりやすい。
- ・社員の福利厚生機会とし、ウェルビーイングの向上につなげやすい。

<NPO/NGOにとっての価値>

- ・NPO/NGOが有する、社会課題解決や社会的な価値創造の現場を、企業人に時間してもらうことができる。
- ・社会課題を伝える機会となり、社会的な認知度向上につながりやすい。
- ・関心のある人が団体と継続的にかかわるきっかけとなり得る。

<当協会にとっての価値>

- ・企業やNPO/NGOと連携し、「助け合って、元気になる」価値を実感する人を増やせる。

団体名 特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR Japan)

所在地 東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル7階

設立 1979年 11月 Email info@aarjapan.gr.jp

HP <https://aarjapan.gr.jp>



● 団体概要

Mission: 一人ひとり多様な人間が、各々の個性と人間としての尊厳を保ちつつ共生できる、持続可能な社会をめざします。

Vision: 紛争・自然災害・貧困などにより困難な状況に置かれている人々に必要な支援を届け、明日の社会が今日よりも豊かで希望の持てるものになるようにします。



● 主な取り組み・課題

<取り組み>

- ・ 難民支援
- ・ 障がい者支援
- ・ 災害支援
- ・ 地雷対策支援

<課題>

資金と資源の不足

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



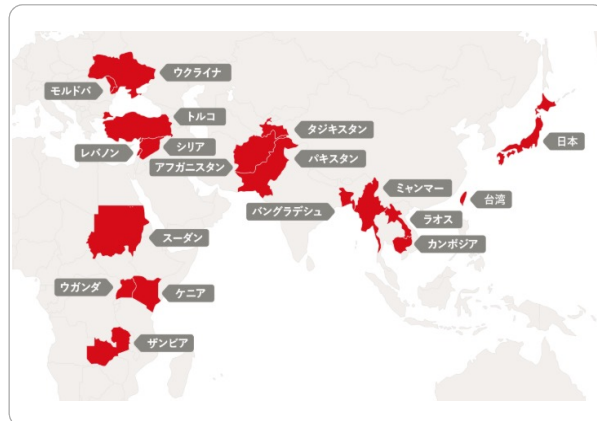
3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



● 主な活動地域



● これまでの連携実績

1. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: エーザイ株式会社

分野: 感染症対策

対象者: スーダン国民

強み: スーダン国内のネットワーク

成果: 現地の人々の行動変容

- ・ マイセトーマの啓発
- ・ 治療の提供
- ・ 医療関係者への研修

▶ 詳細は [こちら](#)



2. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 薬樹株式会社

分野: 災害支援

対象者: 日本の被災者

強み: 被災者ニーズの把握と炊き出しの実行能力

成果: 避難生活環境の改善

糖尿病や高血圧の方など食事への配慮が特に必要な方に提供する炊き出しメニューの開発

▶ 詳細は [こちら](#)



Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

「住環境」は単なる生活インフラではなく、人の尊厳と社会の再生を支える基盤です。住む場所の安全性・安定性は、命を守ることに直結するとともに、心理的側面にも深く関わります。安定した「居場所」があることは、人が将来を考え、希望を持つ前提条件であり、その後の生活再建や自立の可能性を大きく左右します。安全で尊厳ある住環境を整えることは、人命を守り、依存を減らし、社会全体のレジリエンスを高める最も効果的なアプローチの一つです。国籍やその人の状態を問わず、住む場所に困っている人々が減少する仕組みを創造したい。

私たちができること

- ・ 想定する受益者との接点を直接／間接的に持つ。
- ・ 支援者間のネットワークがある。
- ・ 難民や被災者へ支援するにあたっての適切な対応。

サポートして欲しいこと

- ・ 住環境提供者と支援者の仲介
- ・ 住環境の提供に関連する法律や制度、専門知識の手助け。
- ・ プロジェクト全体のデザイン～実務の仕組みづくりまで

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

受益者は全国に少数ずつちらばっていると思うので、小さくまとめながら様々な場所で展開できるようにする。

団体名 NPO法人ヒマラヤの星たち

所在地 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥4-8-9



設立 2023年5月 Email info@npo-shiningstars.org HP <https://npo-shiningstars.org>

団体概要

Mission: ネパールの明日の社会をつくる子どもたちの眼の健康を守り、健全な成長を支援します

Vision: 視力障害によって学校生活に支障をきたしている子どもの視力を回復して差別のない教育環境をつくります



主な取り組み・課題

■学校における眼の健康を守る事業

ネパールの子どもには、3万人の失明者、25万人の弱視、33万人の屈折異常者（近視等）がいるといわれています。これらの子どもたちが分け隔てのない教育機会を得られるように以下の支援活動をしています。

- 学校における視力の検査
- 医師による眼疾病の検診
- 眼鏡の提供
- 外科手術を含む疾病治療
- 視覚障害者には専門学校への入学の支援、また学校には障害者教育に必要な物資を提供します

主な活動地域

■ネパール国全域を対象とします

ネパール国のうち特に開発の遅れている西部地域の無医村を主たる活動地域とします。これらの地域は、親の教育も十分ではなく、都市部の眼科病院所在地まで遠いこともあり、疾病の気づきが遅れることがあるとともに、経済的理由によって治療機会を逃すことが見られます。

これまでの連携実績

1. 寄付・助成（資金支援型）

連携先: 公益財団法人ヤマト福祉財団

分野: 保健・医療（視力検査、治療、眼鏡提供）

対象者: 学校児童、教員、親等

強み: 教員・親の意識改革、情報ネットワーク

成果: 当法人の事業を通して、子どもの失明に至る疾病を治療し、また屈折異常の疾病をもつものに眼鏡を提供することによって、学校の授業等で健常者と同様の活動が可能となりました。また、眼疾病に理解のある教員を育成することによって、地域社会を含めて眼の健康維持の重要性への理解が拡大しました。



Shared Vision

🌐 連携によって実現したいビジョン

私たちが実施する学校における子どもの眼の健康を守る事業では、眼の疾病の約8割が屈折異常で、眼鏡による視力矯正を現地の小児眼科医および眼科病院に委託して行っています。眼鏡のレンズ、フレームは、年間約300万セット（2022/23年貿易統計）を主にインドと中国から輸入しており、販売・加工は眼科病院に付属する部署や市中の眼鏡店が実施しています。私たちが現地における事業で直面している課題は以下のとおりです。

- フレームの強度が低く、子どもの行動様式では容易に破損する
- 子ども用のフレームの選択肢が少なく、また子どもの行動に見合ったデザインが配慮されていない
- レンズの多くは厚型であり、薄型は価格が非常に高い
- 低視力用レンズが常備されておらず、外国メーカーへの注文となる

については、レンズならびにフレームの製造企業様におかれては、ネパールにおいて製造・販売（直接投資）いただき、子どもにフィットしたメガネ、より耐久性の高い眼鏡を提供することができるものと期待し、上記課題を解決することを目指すものです。

🍊 私たちができること

私たちは以下の豊富な知見および経験をもって、現地に進出される企業様をサポートでき、私たちの学校における事業をより充実したものに昇華できるものと思われ、もって子どもたちの教育環境をさらに高めることができると期待されます。

- ・ 確立した学校における事業の実施
- ・ 各地の学校との密な情報ネットワーク
- ・ 眼科病院および専門医師との強固な協力関係
- ・ 経済・産業の情報・動向の知見
- ・ 関連法規の習熟、政府部内手続きの経験が豊富
- ・ 経済活動に関する広範な現地人脈の活用

🌐 サポートして欲しいこと

- ・ 私たちの実施している事業の実施方法、技術面の助言
- ・ 子ども用メガネレンズ・フレームおよびその他事業関連資材の無償提供
- ・ 眼鏡加工事業者への技術的助言

🌐 ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

専門企業様の私たちの事業への参加が、技術的問題解決の向上と、子どもたちに提供する眼鏡の精度ならびに耐久性を高め、提供を受けた製品を長期間使用できるようになり、事業効果の持続が図られるものと思われたい。

企業様の現地ビジネス参入に際しては、市場調査等の各種進出前調査や、直接投資の公的手続きならびに事業の運営等に、私たちの経験豊富な人材のもつノウハウおよび現地における人的ネットワークを生かして、事業を成功に導くべく協働させていただきます。

団体名 一般社団法人モザンビークの新しい教育を支援する会 / 都留文科大学

所在地 モザンビーク共和国・マトラ市 / 山梨県都留市

設立 2024年 2月 Email takurosekiya.moz@gmail.com



<https://sites.google.com/view/education-moz/>



団体概要

Mission: 一人一人を大切に教育の探求と実践、一人一人を大切に
する社会の実現

Vision: 全ての子供達を笑顔に
障害の有無を問わず全ての人達に良質な教育を届け、
全ての人に自立する機会を届ける



主な取り組み・課題

SDGs4 : 質の高い教育をみんなに

- ・ 障害児教育・幼児教育
- ・ 教育調査・子供達の心のケア



SDGs10 : 人や国の不平等をなくそう

- ・ 障害者の就労支援



主な活動地域

(一社)モザンビークの新しい教育を支援する会
モザンビーク・マトラ市
施設での障害者の就労支援・幼稚園での障害
児教育

都留文科大学

- ・ ネパール・ラリトプール市
教育調査・幼児教育・読書支援)
- ・ アフリカ・アジアのNGOや国際機関と連携
した調査活動を実施中

これまでの連携実績

1.

連携先:

分野:

対象者:

強み:

成果:

2.

連携先:

分野:

対象者:

強み:

成果:

Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

当団体が持つモザンビークのコンテクストに対する理解と人脈、弊学が持つ国際教育協力への知見と調査能力が掛け合わさった所に、企業が有するポケモンやキティちゃんといった日本発のグローバルコンテンツとリソースが活用されることで、紛争で傷ついた子供達に笑顔を取り戻せる社会の実現

日本発の素晴らしいキャラクター達が、世界中の子供達のために一層グローバルに活躍していく国際社会の実現

私たちができること

- ・モザンビークの文脈の理解。現地に10年住み、活動する上で言語・文化的な障壁があまりなく、現地の行政機関ともやり取りのある代表が、活動の円滑な運営を支えます
- ・行った支援活動が、本当に意味があるものだったのか厳密に検証し、ダメだったのであれば活動改善へつなげ、良かったのであれば学術論文として発表し、他の国で活動する時や他のアクターと連携する時の足掛かりを提供します
- ・教育関係の国際機関とコンタクトを取り、活動のスケールアップを模索できます

サポートして欲しいこと

- ・グローバルに知名度があるキャラクターを活用した、紛争により傷ついた子供達の心を癒すための活動に、リソースを提供して頂きたい

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

更に挑戦したい取り組み

- ・モザンビークで学術的に厳密な効果を示すことを足掛かりに、我々の活動への国際機関などの他のアクターの参画を招いて、世界各地の紛争地域で日本のキャラクター達が躍動して、子供達が笑顔を取り戻していく国際的な体制を構築したいです！
- ・世界的には9割の子供が小学校を、8割の子供が中学校を卒業できるようになるなど、殆どの子供が学校に行けるようになりましたが、途上国の子供達の約7割は基礎学力を身に付けていません。日本型玩具でこの問題を解決できるのか、例えばキャラクターの「かるた」で子供達の識字率は向上させられるか、プロジェクト実施・効果検証をしたいです！

団体名 株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング

所在地 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-12-8 ル・グラン原宿



設立 1994年

Email pfc@peoplefocus.co.jp

HP <https://www.peoplefocusconsulting.com>

団体概要

Mission: 私たちは、世界の平和と健全な社会の発展を目指し、Benefit for the world（世界にとって有意義な貢献を行う）活動を絶え間なく続けていきます

Vision: サステナビリティOD（サステナビリティ組織開発）で経営、および人と組織の未来を切り拓く

People
Focus
Consulting

主な取り組み・課題

- ・対象：十分な教育をうけていない貧困層
- ・取り組み：ライフスキル（非認知能力）教育の提供

1 貧困をなくそう



4 質の高い教育をみんなに



8 働きがいも経済成長も



主な活動地域

- ・カンボジア王国ブノンペン群
- ・ウガンダ共和国西アチョリ県



これまでの連携実績

1. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 認定NPO法人SALASUSU

分野: 産業人材育成

対象者: 工場の従業員

強み: 教材開発・ファシリテーション

成果: 工場の生産性向上



2. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 認定NPO法人テラ・ルネッサンス

分野: 職業訓練教育

対象者: 元子ども兵

強み: 教材開発・ファシリテーション

成果: 自己肯定感の向上



Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

- 様々な事情によりライフスキル教育を受ける機会がなかった人々に対し、ライフスキル教育を提供することで、建設的かつ効果的に対処できる能力を高められるようにしたいと考えています。能力の獲得により、受講者の以下のことができるようになり、世界の平和と健全な社会の発展に近づくと考えています。
- 【研修により期待される効果】
 - 自己肯定感や自己効力感が高まることで、挑戦できるようになる。
 - 社会の中で健康的に発達する上で必要なコミュニケーション能力、意思決定、批判的思考、交渉技術を身につけることができる。
 - 日常生活の生じるトラブルや交渉に対して適切に対応できるようになる。その結果、健康的なライフスタイルを持続することができる。

私たちができること

- 現地ニーズに基づいた教材開発
- 現地の人々が教える立場になることを想定した現地ファシリテーターの育成
- 研修効果の研修

サポートして欲しいこと

- 現地対象者の困っていることおよび教育レベルの把握
- 研修ができる施設の提供（プロジェクター・椅子・机など）

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

- ライフスキル教育プログラムは、受講者は受けて終わりではなく、学びを通じて成長し、将来ファシリテーターになりたい人が出てきて、自立的に広がるサイクルが出来ることを目指しています。
- そのため、将来ファシリテーターになる人が出てくる可能性を信じ、一人一人に向き合い成長を支援することが取り組みのチャレンジです。

団体名 公益財団法人日本YWCA



所在地 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室

設立 1905年11月 Email office-japan@ywca.or.jp HP <https://www.ywca.or.jp/>

団体概要

Mission: 若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます

Vision: 女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にする社会



主な取り組み・課題

- ・若い女性のリーダーシッププログラムの開催
- ・若年女性の自立援助ホームの運営
- ・女性のエンパワメント事業
(お悩み・DV相談、居場所事業、ワークショップ等)
- ・国連女性の地位委員会の参加・ユース派遣 等



主な活動地域

- ・国内：23地域、37の中等・高等学校
- ・韓国：日韓カンファレンス(日韓交互開催)
- ・中国：南京を考える旅
- ・パレスチナ：パレスチナYWCA支援募金
オリーブの木キャンペーン募金
- ・ミャンマー：ミャンマー支援募金
- ・ウクライナ：ウクライナ支援募金

これまでの連携実績

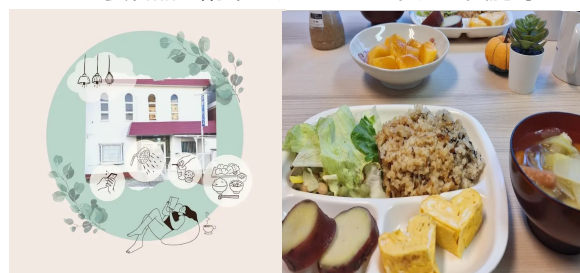
1. 資金支援型(フィランソロピー型)

連携先: (株)コロンビアスポーツウェアジャパン
分野: 国際女性デー寄付付き商品の販売
対象者: YWCAピースメーカーズ募金へのご寄付
強み: 双方の女性リーダーの歴史と事業実績
成果: 平和プログラムの実施・参加者の補助等



2. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 神奈川県
分野: 困難な問題を抱える女性向け通所型支援
県内の日常生活または社会生活を円滑に営む
対象者: うえで困難な問題を抱えるすべての女性
強み: 行政連携の信頼性、YWCAの女性向け居場所
事業の実績・ノウハウ
成果: 利用者に手作りの食事の無料提供、日用品・
食料品の配布、ワークショップの実施等



Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

日本YWCAの若い女性のリーダーシッププログラム、困難を抱える若年女性のための居場所事業、および、自立援助ホーム事業において、企業や他団体の皆さまと連携し、商品やサービス、認知度を活用させていただくことで、事業の拡充と活性化、若年女性が抱える課題の社会的な認知度の向上につなげていきたいです。

Shared Visionで出会えた、またこれから出会う皆さまとの連携を通して、日本社会全体における若い女性のエンパワメントを推進し、女性がリーダーシップを発揮し、人権・平和・環境が守られる社会を実現します。

私たちができること

- ・ 女性支援・リーダーシップ養成の実績とノウハウ
- ・ 行政・研究者・女性支援団体・NPO/NGOとのネットワーク
- ・ 世界100か国以上の海外YWCAのネットワーク
- ・ 政策提言
- ・ 国連女性の地位委員会での報告 等

サポートして欲しいこと

- ・ 事業の助成・食品・物品のご寄付
- ・ ボランティア・プロボノの派遣
- ・ 若年女性向けワークショップ等の実施
- ・ 困難を抱える若年女性の居住・就労支援
- ・ 若年女性を取り巻く課題の認知度向上のための報道および広報協力 等

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

日本YWCAが取り組んでいる若年女性支援事業は、行政、企業、学校、学術研究者、医療、地域社会、NPO/NGOなど、多様なステークホルダーとの連携が不可欠な分野です。

これまで、多くのステークホルダーの皆さまと連携し、また、ご支援を頂き、事業を進めてきましたが、今まで連携する機会がなかった方々や、企業・団体の皆さまとも今後積極的に連携を進めていくことで、新たな協働の可能性を見つけ、若い女性のエンパワメントとリーダーシップの養成を推進していきたいと考えています。

団体名 認定NPO法人藤沢市民活動推進機構

所在地 神奈川県藤沢市藤沢577 寿ビル301号室

設立 2001年3月1日 Email f-npoc@shonanfujisawa.com HP <https://f-npocafe.or.jp/>



団体概要

Mission: 市民が主体的に関わるまちづくりに関わる社会を目指す

- ・「つなぐ・支える・うごく」をキーワードに、「NPOを応援するNPO」
- ・市民および市民活動団体等に対して、活動支援に関する事業を行い、

Vision: 市民活動の推進によるまちの活性化に寄与する



主な取り組み・課題

- ・ NPO支援施設運営
藤沢市市民活動推進センター／プラザむつあい
- ・ 湘南SDGsネットワーク設立
(一般社団法人SDGsジャパン幹事団体)
- ・ 地域でつながるワカモノ×NPOインターンシッププログラム
- ・ 地域版組織診断システムの運用(17の視点)ツールの開発
(神奈川県NPO伴走応援プロジェクトで使用)

主な活動地域

神奈川県、藤沢市



これまでの連携実績

1. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 藤沢市(神奈川県)

分野: 市民ボランティアの育成

対象者: 市民

強み: 市民の地域を支える力

成果:

2.

連携先:

分野:

対象者:

強み:

成果:

2020応援団 藤沢ビッグウェーブ

登録者数 1万8000名

ボランティアレジェンドは、「チームFujisawa」に登録しボランティアとして継続して現在も活躍している

※2021年、オリンピック・パラリンピック東京2020大会、セーリング競技が江の島で開催され、弊法人では、東京2020大会を盛り上げる「2020応援団 藤沢ビッグウェーブ」を、2018年から藤沢市役所と協働で運営

Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

市民が主体的に関わるまちづくりに関わる社会をつくるため、
複雑に絡み合う社会課題を他セクターで協力しながら解決できる構造をしっかりと機能するものに整えていきたい

私たちができること

- ・ NPO、行政、企業、地域のステークホルダーとの協働や連携のサポート
- ・ 協働コーディネーター
- ・ NPOへのさまざまな支援
- ・ 業界や団体についての分析

サポートして欲しいこと

- ・ 御社のCSR担当責任者との打合せの設定
- ・ 社会課題に取り組む人や組織が集まる場へ、御社社員も参加できるような仕掛け作り

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

- ・ NPOが活躍するための環境づくり、NPOへの支援
- ・ NPO・企業・行政・その他ステークホルダーとの協働、共創の推進
- ・ 地域課題解決の人材を地域の中で育てる

団体名 (株) 杉インターフェイス

所在地 〒501-4222 岐阜県郡上市八幡町島谷72-21



設立 2018年1月 Email info@sugiinterface.jp HP <https://sugi-interface.studio.site/>

団体概要

Mission: 森から世界を創発する

Vision: 森 × (食・教育・環境・地域文化) によって
自然と共生する循環濃度を高める

団体イメージ

主な取り組み・課題

ガジヤマダ大学とともに取り組む

- ・ 持続可能な森林資源活用に資する循環型農業としての菌床キノコ産業の普及
- ・ 菌床培地の品質を向上させる実証と普及
ヒラタケ・キクラゲ等キノコの栄養価と料理方法の教育

課題

共通のミッション、ビジョンを持つパートナーとガジヤマダ大学+当社を繋ぎ事業化すること。

主な活動地域

インドネシア

- ・ ガジヤマダ大学が位置するジョグジャカルタ特別州スレマン県を中心とした地域。隣接する中部ジャワ州エリアも。
- ・ ガジヤマダ大学の持つネットワーク
 - Perum Perhutani (林業公社)
 - インドネシアの首都移転先IKNに隣接するワナガマ・ヌサンタラ621ha

これまでの連携実績

1. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: JICA、ガジヤマダ大学、名古屋大学、岐阜県森林研究所、スレマン県庁等
分野: JICA草の根技術協力(森林・農業)
対象者: UGM職員、キノコ農家、スレマン県職員
強み: 事業企画運営実務
成果: 同大に「菌床キノコ生産支援センター」を設置し指導員を育成した。

JICA草の根技術協力事業

「製材廃棄物(おが粉)を活用する持続可能な菌床キノコ生産振興事業」の企画と事業運営を担った。専門家に名古屋大学大学院生命農学研究所+岐阜県森林研究所の支援体制を配置しガジヤマダ大学森林学部をカウンターパートにした事業スキームで、上記「対象者」を受益者とした3年間の事業を実施した。

2. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: スレマン県、ガジヤマダ大学
分野: 食の教育
対象者: スレマン県在住の女性グループ
強み: 目的達成に必要な組織・人材との連携構築
成果: キノコの栄養価と料理方法。食と健康の啓蒙

スレマン県副知事夫人主宰の女性の会のメンバーに、インドネシアの家庭では未だ新しい品目であるヒラタケ等のキノコの栄養価について解説し、家庭での料理方法を3種類紹介した講座。参加者はキノコ食材の栄養価を知り、日常の食材として取り入れることへの関心を高めた。“「食と健康」の繋がりについてもっと学びたい”と意識を高めてもらえた。

Shared Vision

🍄 連携によって実現したいビジョン

森×食：

オガクズを菌床培地の主原料とする「菌床キノコ」は持続可能な森林資源の活用にあ資する循環型農業の一つ。森を守りながら健康的でおいしい食材ができる森の恵み。もっとキノコの栄養価教育、食と健康の啓蒙を進めたい。

森×教育：

キノコの栄養価、菌床キノコの栽培方法、森とキノコのつながり……菌床キノコ栽培から引き出される教育テーマは多様だ！ 対象年齢に応じたスタディツアーも！ 自分の暮らしと自然の循環を引き寄せて学ぶ機会を提供したい。

森×環境：

インドネシアの菌床の培地の主原料は製材廃棄物のオガクズ。でもバガスや籾殻等の活用も実証したい。地域住民と共創する植林活動、再造林活動事業に菌床キノコ栽培メニューを加え地域住民の生活向上に役立てたい。

森×地域文化：

森の傍には里があり地域の祭りや暮らし文化、多様な生態系がある。森を守る知恵を地域住民から聞き取り自然循環と共生する暮らしの豊かさを求めたい。

➡ 森 × (食 + 教育 + 環境 + 地域文化) により自然と共生する循環濃度も速度も加速する！

🍌 私たちができること

○ガジャマダ大学と当社のパートナーシップでインドネシア現地コミュニティ・大学・行政・企業等をつなぎ「協働の現場」を創出すること。

○ガジャマダ大学が有するワナガマ、ワナガマ・ヌサンタラ等の森のフィールドとの連携

○インドネシア林業公社「Perum Perhutani」等との連携

🍌 サポートして欲しいこと

○連携パートナーの紹介

○スポンサー、助成

○上記のミッション・ビジョンに適合する商品、技術等を有する企業からの業務委託

○上記のミッション・ビジョンを共有する企業等からの共同企画

🍌 ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

○インドネシアでの食育活動：特にヒラタケ、キクラゲ等の栄養価啓蒙とキノコ料理の普及

○インドネシアの子どもたちへの「菌床キノコ」収穫体験イベント

○ガジャマダ大学と同大学演習林・ワナガマをフィールドとした「森と菌床キノコ」のスタディツアー。樹木の葉を用いる草木染、エコプリント体験も。

○キノコ農家や地域住民と共に取組む「ヒラタケの加工食品」の開発

○ガジャマダ大学「菌床キノコ生産支援センター」で取組むヒラタケの種菌生産能力の確立と販売網の開発

○上記センターで取組むバガスや籾殻など農業廃棄物の培地適性実証→社会実装

団体名 NPO法人マmanoアマゾンニア

所在地 東京都



設立 2025年2月 Email info@mamanoamazonia.org HP https://mamano-amazonia.org/

団体概要

Mission

- マゾンチャクラを実践する家族農家の支援を通じて農家の収入向上を目指します。
- 熱帯雨林に生息する種の商用化支援を通じて熱帯雨林の保全を目指します。
- アマゾンチャクラの認知、普及活動を行います。
- 日本とエクアドルの交流による環境教育を通じた環境保護意識の啓蒙活動を行います。

Vision 豊かな熱帯雨林の保全とエクアドルのアマゾンチャクラ農法を実践する家族農家が安心して笑顔で暮らせる社会を目指します。



主な取り組み・課題

《熱帯雨林保全・生物多様性》
チャクラ農法（世界農業遺産）、
野生種カカオ保全、植樹

《貧困・収入向上》
家族農家支援、生産性向上、収入機会創出

《環境教育・文化・伝統の保全と啓蒙》
伝統的なチャクラ農法の認知促進、
地域文化と環境価値への理解の促進



主な活動地域

エクアドル ナボ県（アマゾン地域）

ナボ県は人口の55%以上が先住民で構成され、67%以上が国立公園として保護され、豊かな熱帯雨林と生物多様性のホットスポットとしても知られています。



これまでの連携実績

1.

連携先:

分野:

対象者:

強み:

成果:

2.

連携先:

分野:

対象者:

強み:

成果:

Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

「豊かな熱帯雨林の保全」と「エクアドルのアマゾンチャクラ農法（世界農業遺産）を実践する家族農家が安心して笑顔で暮らせる社会」に！

※チャクラ農法は、アマゾンに暮らす先住民族が代々受け継いできた、**森を壊さず、森の多様性を活かして作物を育てる農法**です。カカオや果樹、薬用植物など、さまざまな植物と一緒に育てることで、森の生態系を守り、土を豊かにし、農薬や化学肥料に頼らず、農家の安定した収入につながるという循環を生み出します。

私たちができること

- ・現地情報の提供やローカルの先住民組合、研究機関、ローカルNGOとのパイプ役
- ・現地での植樹活動のノウハウやリソースの紹介。
- ・現地スタッフによる現在必要とされている農家、女性、若者に向けたキャパシティビルディングのメニューの提案。

サポートして欲しいこと

- ・植樹活動やキャパシティビルディングを通じた生物多様性の保護、家族農家の収入向上につながる支援。
- ・チャクラ農法で育てられた熱帯雨林に生息する希少性の高い種の食材、薬草をサステナブルな形での商用化。

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

熱帯雨林保全を「見える価値」に

チャクラ農法による森林保全の成果を可視化（森林面積、生物多様性、CO₂吸収などの可視化・データ化）

世界農業遺産を「次世代につなぐ」

チャクラ農法を誇りと収入につながる未来の仕事になる支援をすることで、若い世代が継ぎたい農業を育てる。

支援者と森を「感情でつなぐ」

南米アマゾンの問題はなかなか自分ごとになりにくいアマゾンの商品や体験、支援を通じて「森を守る」当事者になれる関係をつくる。

団体名 認定NPO法人CLACK

所在地 大阪府大阪市淀川区十三東4丁目1-5 よどがわベース2階

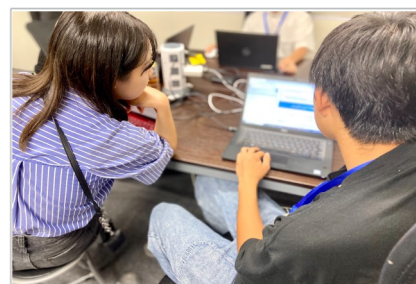
設立 2019年3月 Email contact@clack.ne.jp HP https://clack.ne.jp



団体概要

Mission: 学ぶと働くの未来の当たり前をつくる。

Vision: 生まれ育った環境に関係なく、子どもが希望とワクワクを持てる社会。



主な取り組み・課題

経済困窮や不登校などの困難を抱える高校生を対象に、デジタル教育・キャリア教育を提供し、将来に必要なスキルの習得を目指す。

「小さな成功体験」を積み上げることで、自己肯定感や学習意欲を向上させ、将来自立・自走できる力を養う。



主な活動地域

大阪市淀川区
よどがわベース



東京都中野区
テクリエさぎのみや

これまでの連携実績

1 共創関係型(インテグレーション型)

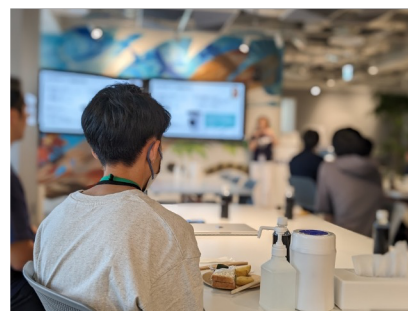
連携先: Okta Japan株式会社様

分野: 教育

対象者: 困難を抱える高校生

強み: 将来の選択肢の幅を広げる

成果: 高校生を対象にしたキャリアトークイベントの共同開催を継続している。参加した高校生は将来の選択肢を広げるきっかけを得られ、「仕事に対する価値観がクリアになった」などの声も上がる。社員の方々にとっても満足度が高い。さらに、高校生がプログラムで使用するパソコンもご寄贈もいただき、環境面の障壁を下げる支援にもつながっている。



Shared Vision

🌟 連携によって実現したいビジョン

私たちは、家庭環境や学校生活で様々な困難を抱える高校生に対して、デジタル教育・キャリア教育を提供し、企業との連携を通じて「社会とつながっている」「自分にも将来の選択肢がある」と実感できる機会を届けたいと考えています。社員の方々とキャリアトークやイベント等を通じて、仕事や働くことを身近に感じ、自分の価値観や将来像を描くきっかけをつくります。また、学習に必要なPCの寄贈など環境面での支援も組み合わせることで、学びを阻む障壁を下げしていきます。こうした取り組みを通じて、高校生が小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めながら、将来的に自立・自走していける社会の実現を目指しています。

🌟 私たちができること

- 高校生向けキャリアイベントを通じたボランティア機会の提供
- ボランティア参加による社員エンゲージメント向上への貢献
- パソコン寄贈等を活用した学習機会拡大のための支援設計

🌟 サポートして欲しいこと

- 社員ボランティアの参加
- プログラム運営を支えるご寄付
- 高校生が安心して学べる環境を整えるためのパソコンのご寄贈

🌟 ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

私たちは今後、学びを「働く」につなげる取り組みをさらに強化し、高校生が社会や仕事との接点を持ちながら、将来の選択肢を具体的に描けるようにしたいと考えています。企業の皆さまと共創し、キャリアトークをはじめとするロールモデルとの継続的な対話などを通じて、学んだことが進路選択や就労への一歩につながる導線をつくっていきます。また、支援が届きにくい地域にも機会を広げるため、東京・大阪にとどまらず地方へと活動を拡大し、どこに住んでいても「学ぶこと」「働くこと」を前向きに捉えられる環境を届けることに挑戦します。さらに、学習環境の格差という課題にも向き合い、パソコン寄贈などの環境支援と運営基盤の強化を進めながら、一人でも多くの高校生が自分の力で未来を切り拓ける社会の実現を目指していきます。

団体名 認定NPO法人 れんげ国際ボランティア会

所在地 熊本県玉名市築地2288

設立 1980年3月 Email info@rengе.asia

HP <https://rengе.asia>



団体概要

Mission: 住民たちが自らの経済力による自助努力で自分たちのコミュニティを形成するのを支援する事。

Vision: 人々が最低限の良好な教育を受け、これにふさわしい仕事や収入を得て、その収入で最低限の人間の文化的な生活を営むことができる社会の実現。



主な取り組み・課題

- ・教育施設整備（小中学校の改修）
- ・上下水道施設整備（トイレ・下水溝・高架水槽の建設）
- ・環境／ゴミ処理教育（ゴミ分別やリサイクルの啓発）
- ・収入増加のための職業教育
- ・インフラ設備維持管理のための研修（トイレや高架水槽の維持掃除の研修）

主な活動地域

- インド
- ・アグラ市カルワリ地区
 - ・以下地域の地方農村部
 - ・カルナータカ州
 - ・マハーラーシュトラ州
 - ・チャッティスガル州
 - ・オリッサ州
 - ・ヒマーチャルプラデーシュ州

日本国内の被災地

過去、ミャンマー・タイ・スリランカでも活動

これまでの連携実績

1. 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 熊本県玉名郡玉東町
分野: ウクライナ避難民支援事業
対象者: ウクライナからの避難民
強み: 自治体との連携、
成果: 地域のネットワーク活用

6世帯17名のウクライナからの避難民を迎え、生活・教育・就職支援を実施。避難民の皆さんは現在も避難生活を送りながら、日本での就職や進学で新たな生活を送っている。

2.

連携先: 九州看護福祉大学
分野: 国内被災地での口腔ケア指導
対象者: 能登半島地震の被災者
強み: 被災地への継続的な支援の経験
成果:

石川県輪島市の仮設住宅で口腔ケア指導、及び口腔ケアの重要性を啓発。被災中の歯磨きの促進や口内環境を整える体操を指導した。

Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

- ・インドにおいて、水/衛生観念の啓発教育を促進し、衛生的なトイレを普及する。
- ・職業教育を通してインカムジェネレーションを促進し、現地住民が自費で衛生的なトイレ環境を整えられるようになること。

私たちができること

- ・現在の活動地（インド・アグラ市の貧困地区）で普及を進める。
- ・学校の改修（トイレの新設含む）と地域の下水溝整備工事で、現地住民との信頼関係の構築が進んでいる。更に、共に活動する現地NGOとの協力により、現地のニーズを汲んだ活動を進める。

サポートして欲しいこと

- ・製品や機能についての専門知識の共有や現地への普及
- ・現地の状況やニーズに則した、現実的な資材の提案

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

現在活動中のインドの貧困地区では、改修工事を行った学校を中心としたにコミュニティ全体へ、環境・衛生教育を広めている。その経緯を活かし、この地域をモデルケースに日本式のトイレ普及を目指したい。ハード面の設備だけでなく、ソフト面の掃除や維持管理といった点も同時に普及していきたい。

団体名 Kai Analytics株式会社

所在地 東京都新宿区西新宿3丁目3番13号西新宿水間ビル2F

設立 令和5年7月 Email info@kaianalytics.jp HP <https://www.kaianalytics.jp/>

団体概要

Mission: AIとデータを活用し、NGOおよびNPOを支援する

Vision: データを通じて、グローバル規模の社会的価値を創出する



主な取り組み・課題

- 最先端の自然言語処理 (NLP)
- 機械学習モデルによる定性的なデータ分析
- Data FactoryやSynapseなどのAzureツールによるデータ変換
- Power BIによる可視化 など

主な活動地域

日本国内外を含むグローバルなフィールドで事業を展開。本社はカナダ・バンクーバーに構え、日本では東京に拠点を設置。

現在は、カナダ、アメリカ、日本、スイス、タイ、インドに顧客を有し、地域や国境を越えたプロジェクトに取り組む。

- *国連のすべての公用語をサポート
- *国際協力/開発領域での経験が豊富

これまでの連携実績

1. MSMEにおける職場のジェンダー平等調査

連携先: Asia-Pacific Foundation of Canada

分野: 食品・飲料セクター

対象者: タイの中小零細企業 (MSME)

強み: アンケート調査、NLP、可視化

成果: 持続可能な経営およびジェンダーを考慮したビジネス慣行に関する明確なベンチマークを提示

MSMEの事業者15名へのインタビューおよび政府機関・業界団体5組織へのヒアリング、また、200名のMSME事業者を対象にアンケート調査を実施。自然言語処理 (NLP) を用いて、主要なテーマやペルソナを抽出し、分析結果を最終報告書としてまとめるとともに、インタラクティブなベンチマークダッシュボードをPower BIで可視化。

2. グローバル保健政策に向けた調査

連携先: 世界保健機関 (WHO)

分野: 伝統医療・補完代替医療・統合医療

対象者: 世界各国のWHO加盟国の政策立案者

強み: アンケート調査、データの自動化・統合や可視化

成果: 政策改善が必要な分野を明確化するとともに、世界的に共通する標準的な実践内容を特定

WHOが実施する第3回「伝統医療・補完代替医療・統合医療 (TCIM)」に関するグローバル調査を担当し、政策決定に資する実践的な枠組みを提供。調査票は国連の公用語すべて (アラビア語、中国語、英語、フランス語、スペイン語) で翻訳。また、Power BIによる自動化されたレポートダッシュボードを活用し、データ収集過程をリアルタイムで可視化。

Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

あらゆる組織がデータを活用し、より良い未来を築くことができる世界の実現

私たちは、人工知能・モニタリング&評価・世論調査などに強みを持つデータサイエンス企業。

データドリブンな専門性を活かし、社会的価値の実現を支援できるパートナーシップ拡大を目指す。事業のスケールアップにつながるデータ分析を通じて、NPOやNGO、そして社会的価値の創出を目的とする組織の可能性を最大化する。

協業の形は多様であり、限られたリソースの中でも最大限の成果を生み出せるよう、実効性の高い取り組みを重視している。

- 組織の業務ニーズに対応
- 助成金や提案依頼（RFP）への共同申請 など

私たちができること

私たちは、多様なスキルを持つデータアナリスト、リサーチャーやコミュニケーションの専門家からなる強力なチームであり、以下のような支援が可能。

- 人工知能（AI）アプリケーションの構築
- データの統合および整理
- モニタリング、評価、レポートのためのダッシュボード活用
- データを分析し、意思決定に役立つ知見を導き出す
- その他さまざまなデータ活用支援

さらに、資金獲得を最大化するために重要となる提案依頼書（RFP）や助成金申請において協働できる、優れた執筆力を持つメンバーも在籍。

サポートして欲しいこと

- **データ活用を中核に据えたプロジェクトへの協業機会**
社会課題の解決に向け、調査・分析・AI活用を含むデータドリブンなアプローチを必要とするプロジェクトへの参画
- **助成金・RFPへの共同申請・共同実施パートナー**
日本国内の市町村や国際機関、財団等による助成金や提案依頼（RFP）への共同申請・実施を通じた、社会的インパクトの創出

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

• 多様なミッションを持つ組織との協業モデルの構築

組織ごとに異なる目的や制約を理解し、最も効果的な支援の形を共に設計すること

• データ活用の価値を分かりやすく伝えること

専門的な分析結果を、現場・意思決定者・支援者にとって理解しやすい形で可視化・共有すること

• 社会的価値創出と持続可能性の両立

社会的インパクトを追求しながら、長期的に継続可能な協業関係と事業モデルを構築すること

団体名 特定非営利活動法人NGO福岡ネットワーク

所在地 福岡県福岡市博多区博多駅前3丁目6-1 小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

設立 1993年9月 Email funn@ngofukuoka.net HP <https://ngofukuoka.net/>



団体概要

Mission: 「人と世界をつなぐ」
「NGOに関わる人と人をつなぐ」
「NGOと他セクターをつなぐ」

Vision: 平和で公平・公正な世界の実現



主な取り組み・課題

- NGOの活動や運営に関する支援
- 国際協力に関する調査・提言
- 国際協力に関する情報・学習機会の提供
- NGO活動に関する人財育成
- NGO間および各種団体との連携促進



主な活動地域

九州全域
(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・
宮崎県・鹿児島県)



これまでの連携実績

1 共創関係型(インテグレーション型)

連携先: 宗教法人真如苑 社会交流課

分野: 社会貢献活動全般

対象者: 九州全域のNPO/NGO

強み: 国内外の社会貢献活動の実践や多数の支援実績

成果: 2014年度より、弊会と真如苑との協働事業の一環で九州地域の国際支援・理解活動を対象とした助成金事業を開始。九州地域のNGO支援を行ってきた弊会と各地で市民団体向けに助成金事業を行ってきた真如苑がお互いのネットワークやノウハウを活かして、10年以上継続して実施しております。これまでに約70団体の支援活動や組織基盤強化に活用していただき、九州の国際支援・理解活動の底上げに寄与しています。

Shared Vision

🌐 連携によって実現したいビジョン

弊会が実施している在留外国人支援をはじめとした多文化共生の分野において、担い手となる団体・関係者の活動をサポートする取り組みを、民間企業の視点や強みを活かして推進することで、地域における多文化共生の取り組みをより一層発展させていきたい。

🌐 私たちができること

- ・九州地域の国際協力NGOや北部九州の多文化共生団体・個人とのつながり
国際協力・多文化共生に関する知識、経験
- ・イベントやワークショップ等の実践経験
- ・主に北部九州における多文化共生関連情報を掲載するHPの運営

🌐 サポートして欲しいこと

- ①在留外国人の身近にいる人達が、支援が必要になった場合に活用できる、企業の専門性に根差した情報や支援（家探し、仕事探し、医療（通訳）支援、物品・資金提供等）。支援者・被支援者共に資金的に余裕がないことが多いため、無償または低価格な支援情報を希望。連携できる内容については弊会ホームページ等で情報発信を行う予定です。
- ②当会が実施しているプラットフォーム活動の広報や運用等への助言・関与・研修協力等。
- ③在留外国人受け入れ企業関係者には、受け入れの状況や課題感など意見を収集したい。

🌐 ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

多文化共生に携わる団体・担い手と民間企業が継続的につながり、相互に学び合いながら地域での取り組みを発展させていくための連携の仕組みづくりにチャレンジしたい。

Shared Vision

連携によって実現したいビジョン

海外で国際協力に取り組むNGOが直面する課題や悩みを共有し、ネットワークとして知見や経験を持ち寄ることで、各団体の活動の質と継続性を高めていきたい。

私たちができること

- ・九州地域の国際協力NGOや多文化共生団体とのつながり
国際協力・多文化共生に関する知識、経験
- ・イベントやワークショップ等の実践経験

サポートして欲しいこと

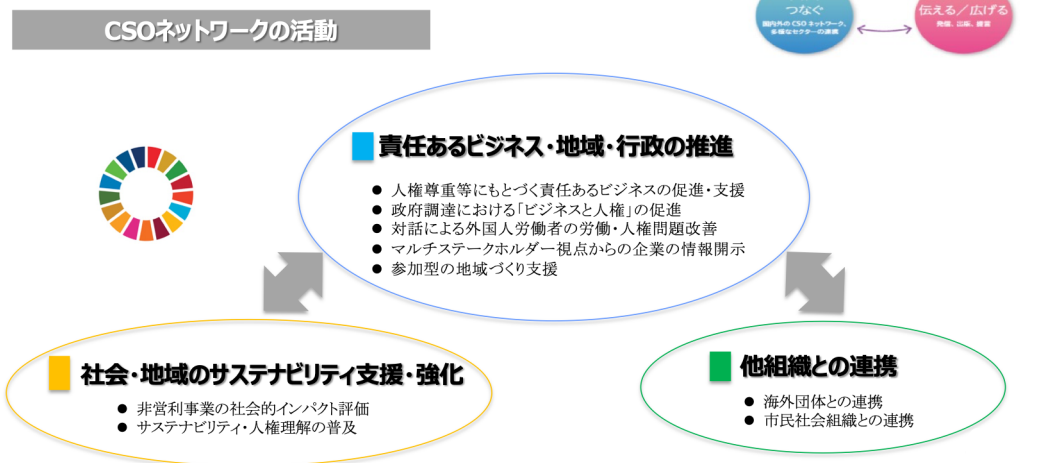
- ①九州のNGO活動を支えるため、途上国の現場で協力・協働できる分野・技術・知見・資金協力等についての情報を共有していただきたい。当会の加盟団体や他団体からの問い合わせに応じて活用していきたい。（非営利活動であるので、基本的には対価が発生しない・または必要経費のみでの対応を希望）
- ②社会貢献に関心がある社員の方のプロボノのような立場で人材面での協力がほしい。（組織運営・広報・イベント企画運営等）

ビジョン実現のためにチャレンジしたいこと

海外支援や国際協力に取り組むNGO同士、またNGOと企業等の他セクターが、分野や地域、立場を越えてつながり、経験や課題を共有し合える機会をつくることでネットワークとしての連携を強化することにチャレンジしたい。

実施主体：一般財団法人 CSO ネットワーク

- 1999年 設立 / 2011年 一般財団法人格取得
- ビジョン・ミッション：一人一人の尊厳が保障される公正で持続可能な社会の実現に向けて
価値ある取り組みを見出し、マルチステークホルダーの参画による社会課題解決を促す



報告書執筆者：一般財団法人 CSO ネットワーク / EMA 楯 晃次

一般財団法人 CSO ネットワーク 長谷川 雅子

令和7年度 「NGO 研究会」

-NGO と他の機関・団体との連携、組織基盤の強化-

実施報告書

一般財団法人 CSO ネットワーク

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田 2-3-18 アバコビル 6階

Email: ffice@csonj.org

URL: <https://www.csonj.org>



一般財団法人

CSOネットワーク